

軽井沢観光のあゆみ

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1871 明治 4	8 月	峠町・軽井沢村・沓掛村・借宿村・塩沢新田・油井村・成沢新田・馬取萱村・発地村・追分村・茂沢村に分かれていた
1872 明治 5	6 月 25 日	軽井沢宿に人力車 2 台現わる（武助日記）
1873 明治 6		人力車、追分に入る（車体には藤製の箱が用いられた）
1876 明治 9		小瀬温泉、国有林の一部を借りて開業
1877 明治 10		英国人プレイヤー、浅間山系からアサマモンキチョウを発見
1878 明治 11	9 月 6 日	明治天皇、北陸東海ご巡幸のおり、峠町熊野皇大神社で小休、軽井沢宿旧本陣佐藤織衛方で昼食、追分宿旧本陣土屋一三方でお泊まり行在所となる ※主要官僚、岩倉具視以下 672 人、それに長野県の官吏や警察官が随行諸員計 797 人、人足 1,027 人、馬 113 頭動員
1880 明治 13		人力車、追分宿 70 台、軽井沢宿 7 台あった
1881 明治 14		借宿の土屋長次郎、柳宿で天然氷を始める（北佐久郡志）
1882 明治 15		追分、土屋一三天然氷始める
1884 明治 17	5 月 22 日	碓氷新道、坂本～軽井沢駅間（離山間ともあり）工事竣工 ※県七道開さく工事で、一番早く完成する。延長 4 里 25 丁 18 間、人夫 30 万 3 千人、工事費 7 万 9 千円、工事費は全額長野県で負担し、明治 18 年 11 月群馬県に管理を移管している。（現国道 18 号線）（長野県政史第 1 巻）これによって、軽井沢宿衰退の一途をたどる。
1886 明治 19		A.C. ショー師、ディクソンの両氏が、7 月上旬に何れも家族を伴って来町（8 月下旬まで滞在し、ショー師は高林董平の居宅、ディクソンは佐藤万平氏所有の家屋を借り受けた） ※ A.C. ショー師はこの滞在によって実見した軽井沢の風土が避暑地として好適なるを証明し、専ら内地在留の欧米人に紹介して来遊を勧める。 A.C. ショー師は、1846 年（弘化 3 年）3 月、カナダのトロント市で生まれた。父はスコットランド（英国）貴族の出で、当時トロント市の連隊長であった。父のもとで、神学校に学び、卒業後日本に派遣された。明治 6 年 9 月横浜に上陸し、東京

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1888 明治21	5 月	<p>でまず日本語の勉強を始めた。一時、福沢諭吉方に居住し、慶應義塾でキリスト教倫理学を講義した。宣教に従事して多数の信徒を得た。</p> <p>泉喜太郎、天然氷の製造を開始</p> <p>A.C.ショー師、つるや主人佐藤忠右衛門の斡旋によって大塚山に別荘を建てる(別荘の第1号) ※民家を移転し、改造したものである。現在移築し、ショーハウス記念館としてショー記念礼拝堂裏に現存する。 デイクソン(東京帝国大学文科講師、英国人)は、佐藤万平宅地内に別荘を建てる。</p> <p>牧野富太郎、軽井沢の谷地で「ヒメマツカサスキ」を発見</p>
1889 明治22	12月1日	<p>直江津線、軽井沢～直江津間開通 上り 下り 1日3本 軽井沢-御代田 中19銭 下10銭 軽井沢-小諸 中34銭 下18銭(交通によって繁栄した追分が交通によって衰微する基となる)</p> <p>イギリス聖公会聖堂(ショー記念礼拝堂) ※ A.C.ショー師によって初めて開かれた教会</p>
1893 明治26	4月1日	<p>避暑客数30余名となる(生徒を除く)</p> <p>碓氷線アプト式鉄道、横川～軽井沢間開通し、高崎～直江津間全通 ※暫くは、高崎・直江津間鉄道と呼ばれ、明治28年路線名称統一制定にあたり、信越線と正式に呼ぶこととなった。(長鉄局20年史)</p>
1894 明治27	8 月	<p>福井県代議士(海軍大佐)八田裕二郎別荘を建てる ※初の邦人別荘で、A.C.ショー師の如く努めて軽井沢を日本の上流社会に紹介する。軽井沢は健康地であり、スイスのモンブラン付近に優る避暑地であるという。</p> <p>外人避暑客の指導によってかんらん(キャベツ)を初めて栽培(雨宮新田)</p>
1894 明治27		<p>このころ旧軽井沢つるや旅館裏に3軒別荘できる(2軒は現存、庭前に蚕かごで囲ったテニスコートを造る)</p>
1895 明治28		<p>亀屋旅館(佐藤万平)を欧米風の外人客専用のホテルに改造し、萬平ホテルと改名(ガラス戸を入れ、畳を取り除いて洋間風にする)</p>

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1896 明治29		日清戦争の直後には、外国人軽井沢村が出来上がる ※外国人は「避暑人会」を組織して自治行政を始め村県当局に対して適当なサジェスチョンをした。
1897 明治30		軽井沢合同基督教会（現ユニオンチャーチ） ※ノルマン、バンコムらによって創立された超教派的合同教会である。
1898 明治31		ダニエル・ノルマン来軽、以後40年間毎夏軽井沢で過ごし、善良清潔な風紀を保つことに尽力する
1900 明治33	6 月	軽井沢ホテル開業（軽井沢旧本陣 佐藤熊六）
1902 明治35	3月13日	A.C. ショー師没（56歳、青山外人墓地に葬る） このころ旧軽井沢の別荘東7～8軒、西5～6軒、南5～6軒、北7～8軒、愛宕山3軒ほどあったという（佐藤荒蔵談）
	9月16日	ドイツ人ベルツ博士、草津への途中軽井沢に宿泊
1903 明治36	9月12日	A.C. ショー師記念碑建立
1904 明治37	夏	山本直良三笠ホテルの建築に着工 ※設計は岡田時太郎、監督は佐藤万平、棟梁は小林代造、建築用式はアメリカのスティックスタイル（木骨用式）、戸のデザインは英国風、下見抜はドイツ風、用材は、小瀬の赤松を現場で製材する。 明治38年秋 落成式 明治39年 5 月 営業を開始 客室30、定員40名、宿泊料一等12円、二等8円、三等5円（普通の旅館は1円ないし2円） 明治40年 8 月 本館完成 明治43年 8 月 大洪水の為流出 大正14年 山本直良から明治屋に移り、株式会社三笠ホテルとなる
1905 明治38	6 月	山本直良、京都の陶業家宮川香山を招いて三笠焼開窯
	12月 1 日	日本キリスト教、キリスト教講義所（軽井沢教会）設立
1906 明治39		別荘 102 戸となる
	7月15日	日本女子大学夏季寮、三泉寮を開設

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1907 明治40		<p>※三井三郎助によって日本女子大学に寄贈され、当町学校施設最初のものである。林間に修養思索研究せよとの趣旨で、「第一に軽井沢は特に涼しい、頭脳が明晰になる。思索、研究にはもってこいである。第二に、一般日本人には縁遠い高原的生活の趣を味わしめる。第三に、寮生各科の者が、一つの部屋に起居するところから、めいめいの長所を採りあってお互いに切磋すること」などと示した。最上級生40名ほど参加し、3週間の滞在によって校風のうえに大きな感化を与え、成果をあげる。</p> <p>山本直良、三笠焼のほかに^{あけび}木通つる細工の奨励、三笠商店を設けて販売、その他植林、緬羊の飼育、蔬菜栽培など地域産業開発に尽力</p> <p>新軽井沢青年有志、軽井沢スケート場をつくる 営林署から借地四千坪</p>
1909 明治42	2 月	<p>雨宮の池で、フィギュアスケートをする 大沼池（晴山ホテルの池）で下駄スケートを楽しむ</p>
1910 明治43	7 月 1 日 7 月 15 日 7 月 26 日	<p>軽井沢警察署で署員英語講習会開催（1ヶ月間）</p> <p>沓掛駅（現中軽井沢駅）開業</p> <p>桂太郎総理大臣離山に別荘を建てる</p> <p>当時の主義・方針「娯楽を人に求めずして、自然に求めよ。」 （清浄軽井沢の基となる）</p>
1911 明治44	7 月 11 日	<p>別荘 178 戸となる</p> <p>軽井沢郵便局新築、木造二階建洋館、二等郵便局に昇格</p> <p>※来軽避暑客は来去に際し、氏名、住所を郵便局に届ける。 避暑客宿泊人員日本人 5,406 人、外国人 6,597 人 延人員（宿泊日数）12万 1,644 人 旧別荘番号東五一番、西二二番、南二五番、北五〇番を 1 番から 680 番までの通し番号（別荘建築予定も含む）を設ける。</p>
1912 明治45 大正 1	5 月 11 日	<p>碓氷峠、横川～軽井沢間アプト式電化 ※わが国最初の電化。乗務員も乗客も煤煙と排気と熱気の悩みが解消。 別荘 193 戸となる</p>

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1913 大正 2		別荘 216 戸となる
1915 大正 4	7月22日	草津軽便鉄道、新軽井沢～小瀬間を蒸気機関車で営業する (10km)
1916 大正 5	12月	別荘 316 戸となる 「軽井沢避暑団」ディー・シー・ライク、ダニエル・ノルマン や島田三郎らの内外人有志によって設立 ※以来軽井沢に来住する者の心身の鍛練向上と文化教養に寄与 される。「会員は品行方正にして節操の人たるを要す」「飲む ・打つ・買う」の追放、いわゆる軽井沢憲法。
1917 大正 6	7月19日	草津軽便鉄道、小瀬～吾妻間 18.336km 営業開始 アンドリウス (カナダ人)、別荘を建てる (敷地 1 万 5 千坪 (現 在 2 万坪)、鳥獣類を飼育する)
1918 大正 7	1月4日 7月23日 8月28日	堤康次郎、沓掛区有地坂下ほか山林60万坪を 3 万 6 千円 (坪 5 銭) で買収、千ヶ滝の開発に着手 軽井沢通俗夏季大学開講 (総裁 後藤新平、会長 新渡戸稲造) 「郡では万人のために大学教育が解放され地方文化の向上に益 することがはなはだ多い点に着目して、通俗大学の希望を入れ、 郡内有力者及び地元軽井沢と協力して軽井沢夏季大学北佐久協 賛会を組織し、基本金を募集して援助した。」(北佐久郡志) 早稲田グラウンド開設 (野沢原) 大隈重信、人力車上から始球を投げたという
1919 大正 8	7月	別荘 400 戸となる 野沢源次郎、長尾原に旧ゴルフ場開設、6 万坪スコットランド のセント・アンドリウスゴルフ場から、技師を招いて設計 ※関東では仙石原ゴルフ場について二番目のゴルフ場。 大正10年 7月に 9 ホール完成 (現在は12ホール)。
1922 大正11		日本人有志によって、「軽井沢集会堂」を建設 ※講演会・音楽会・映画会・展覧会などを開催して、会員一般 に公開する。また、軽井沢地方の博物標本を数多く収集して 会員に供覧させ、研究の資に供したり、日本に関する多数の 図書を備えて、日本文化の紹介の一役を果たす。(軽井沢会 発行ハンドブック)

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1923 大正12	8月1日 8月 8月17日 10月1日	<p>来遊避暑客5千人以上となる</p> <p>別荘542戸となる 東長倉村町制をしき、軽井沢町となる</p> <p>堀辰雄、初めて軽井沢を訪問 以後軽井沢に親しみ、軽井沢を題材とした作品を残す</p> <p>摂政宮、大隈別荘にご避暑、8月25日ご帰啓</p> <p>信濃追分駅開業</p> <p>貨物では天然氷の発送が首位をしめる 採氷業者大小20製氷面積4万坪、製氷の貨車積み4万トン</p>
1924 大正13	11月1日	草軽電鉄、新軽井沢～嬬恋間電化開通（36.799km）
1925 大正14	7月8日 7月20日	<p>軽井沢避暑団、診療所新築落成し開業 （7月～9月）院長マンロー、10月から翌年の6月まではマンローの個人経営となる</p> <p>軽井沢町報創刊（題字揮毫：尾崎行雄 罌堂）</p> <p>南軽井沢飛行場を完成 アメリカ大使バンクロット軽井沢で死去</p>
1926 大正15 昭和元	9月18日	草軽電鉄、新軽井沢～草津間55.5km全線開通
1927 昭和2	7月24日	避暑客のため臨時列車運転（8月15日まで、避暑客、日本人6,025人、外国人1,480人）
1930 昭和5	1月	「財団法人南ヶ丘会」を組織し、東洋一を誇る新ゴルフ場、18ホールの建設を企画（56万坪のうち20万坪は別荘地に分譲する）
1931 昭和6	7月	<p>軽井沢競馬場、馬越原に開設（周囲1,600m、幅員30m）</p> <p>室生犀星、軽井沢に別荘を建てる（現室生犀星記念館）</p>
1933 昭和8	7月1日 10月1日	<p>新ゴルフ場18ホール完成（会長徳川圀順→近衛文麿）</p> <p>軽井沢町観光協会設立</p>

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1934 昭和9	10月30日	碓氷国道舗装完了（坂本～軽井沢間）人夫21万1千人、工事費37万8千円
	2月	町観光課新設
1936 昭和11	8月11日	軽井沢音頭発表会（西條八十 作詞・中山晋平 作曲）
	8月7日	別荘1,330戸となる 軽井沢開発50周年祭を軽井沢避暑団・軽井沢教会堂・軽井沢町合同主催で式典並びに催物を行う（13日まで） ※名誉総裁尾崎峯堂、祝賀国際行列・提燈行列・仕掛花火（野沢ベースボールグラウンド）
1937 昭和12	11月20日	軽井沢町航空測量写真図作成（千分の1） このころ軽井沢彫のピークとなり、彫り師は50人ほどいた 南軽井沢競馬場が軍事教練場となる
1942 昭和17	5月8日	軽井沢町、西長倉村を合併（人口8,746人）
	7月16日	軽井沢避暑団と軽井沢集会堂とが合併し、「財団法人軽井沢会」発足
1944 昭和19	9月	堀辰雄、昭和13年愛宕山に別荘を借用、昭和16年旧軽の別荘を購入し昭和19年には追分に転居のち定住
1946 昭和21		米駐留軍、旧軽井沢のテニスコートに水を張って凍らせスケートを始める
1947 昭和22		小松ストアー旧軽井沢に東京のデパート第1号夏期店を開店
	10月7日	昭和天皇、甲信地方ご巡幸の折、東小学校校庭でご奉迎 大日向開拓地ご視察 御製 浅間おろし つよき籠にかへりきて いそしむ田人 たふとくもあるか
	11月	国土計画、朝香宮別荘を譲り受け、プリンスホテルと命名 外国人向きに営業開始
1949 昭和24	8月4日	軽井沢町商工会発足 会長佐藤恒雄

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
		軽井沢観光協会発足 会長星野嘉助
	8月11日	皇太子、三井別荘へご避暑
	9月7日	「上信越高原国立公園」指定（軽井沢高原、志賀高原を中心）
1950 昭和25	8月2日	皇太子、千ヶ滝プリンスホテルにご避暑
	9月	日本最初の総天然色劇映画「カルメン故郷に帰る」のロケ始まる
1951 昭和26	6月27日	「軽井沢町売春取締り条例」公布
	7月	堀辰雄、追分に住宅を建てる（現堀辰雄文学記念館）
	8月15日	「軽井沢国際親善文化観光都市建設法」公布
1952 昭和27		冬期観光客誘致のため、スケートリンク（軽井沢・晴山・星野・雨宮・千ヶ滝室内）5か所整備（以降年々整備する）
	5月1日	「軽井沢国際親善文化観光都市建設審議会条例」公布
1953 昭和28	1月1日	第24回全国学生氷上競技選手権大会アイスホッケー競技会、星野リンク、旧軽井沢リンク（元英国公使館庭）で開催
	5月3日	浅間山及び軽井沢周辺、米軍演習地の設置反対大会を起こす
	5月27日	浅間山演習地反対県民代表者会議を長野市で開催（71団体 160名集まる）
	5月28日	堀辰雄、追分で没（48歳）
	7月16日	浅間山演習地使用正式に取消し決定
	8月30日	「軽井沢文化人協会」発足（翌年、「軽井沢文化協会」に改称）
	9月25日	泉喜太郎「町誌軽井沢」自費出版
1954 昭和29	1月5日	第25回全国学生氷上競技選手権大会アイスホッケー競技会開催（旧軽井沢リンク・星野リンクにて、21校 650余名参加）
1955 昭和30	7月25日	昭和天皇・皇后両陛下、皇太子殿下のご避暑先をご訪問（28日ご帰還） 御製 ゆうすげの花ながめつつ 楽しくも 親子語らふ 高原の宿

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1956 昭和31		夏期避暑客60万人となる
	4月10日	杳掛駅を中軽井沢駅に改称
	8月3日	第1回日本ジャンボリー（第4回全日本ボーイスカウト大会）、地蔵ヶ原にて開催（7日まで） ※外国スカウト18ヶ国招待、のべ1万3千人のボーイスカウトが集まる。
	8月10日	軽井沢開発70周年式典開催 新軽井沢音頭発表（作詞 菊田一夫・作曲 古関裕而）
1957 昭和32		年間の観光客、101万人となる
1958 昭和33	1月1日	別荘、2,000戸を越す
	4月1日	「軽井沢町の善良なる風俗維持に関する条例」制定公布 （これにより当町では、風俗営業の開店は不許可となる）
	6月	「軽井沢町風俗審議会」発足（会長 英修道）
1959 昭和34	2月1日	スケート熱が盛んとなり、軽井沢町内リンクに日に6万人が来場
	6月13日	軽井沢ユースホステル営業を開始（平成3年から休館）
	8月	「国際親善パーティー」、長野県知事、軽井沢町長共催で開催（以降毎年8月恒例となり、昭和63年から町長・議長共催となる）
1960 昭和35	2月11日	長倉の「ハナヒョウタンボク群落」、長野県天然記念物に指定
	3月25日	杳掛区を「中軽井沢」に改称
	4月25日	草軽電鉄、新軽井沢駅～上州三原間 営業廃止
	4月	塩沢にテニスコート2面完成
	10月22日	町章「  」の制定 ※かるいざわの「か」を意味し、平和の鳥が飛び立つ姿を表わしている。
1961 昭和36	1月7日	晴山ホテル、人工降雪の軽井沢スキー場を開設（日本初）

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
	1月18日	第10回全国高校スピードスケート競技選手権大会開催 (軽井沢スケートセンター)
	1月22日 ～25日	第16回国民体育大会冬季スケート競技開催 (軽井沢スケートセンター)
	6月	塩沢湖完成 塩沢民宿4戸になる(牧翠館、ふじみ荘、塩沢山荘、しなのや)
1962 昭和37	8月27日	夏期出張店 162軒(飲食店44、織物衣服身まわり品38、食 料品22、家具8、サービス業14、その他36)
1963 昭和38		別荘3,000戸を越す
	2月20日 ～24日	女子・男子世界スピードスケート選手権大会開催、20ヶ国120 名参加(軽井沢スケートセンター)
	5月16日	信越線、碓氷新線(横川～軽井沢間)完成(開通7月15日)
1964 昭和39	10月15日	オリンピック東京大会、総合馬術競技が地蔵ヶ原一帯で開催(12 ヶ国48人参加)
1966 昭和41	8月	夏期人口は6万人を超える 夏期観光客は200万人を突破
1967 昭和42		別荘4,000戸を越す
1968 昭和43	5月15日	第1回「軽井沢若葉まつり」を開催(恒例となる)
	6月	塩沢民宿組合結成23戸 会長土屋秀雄 テニスコート70面となる
	7月	東京駅に「軽井沢コーナー」開設(観光案内・乗車券販売・旅 館の予約)
	7月16日	ブラジル合衆国サンパウロ州「カンポス・ド・ジョルドン市」 と姉妹都市締結を町議会議決
	7月20日	夏の軽井沢専用のノンストップ特急「そよかぜ号」運転される。 (東京～中軽井沢間、所要時間 1時間56分)
	8月1日	「軽井沢文学散歩」発刊(以後12版を重ねる)

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1969 昭和44	10月13日 ～20日	第1回「軽井沢紅葉まつり」開催（恒例となる）
	1月30日 ～2月3日	第1回「軽井沢氷まつり」を軽井沢スケートセンターで開催 （3万5千人参加、恒例となる）
	4月10日	「妙義荒船佐久高原国定公園」（八風山一帯）指定
1970 昭和45		別荘5,000戸を越す
1971 昭和46	7月17日	「三度山林道」「軽井沢観光会館（旧軽井沢郵便局）」「小瀬軽井沢野営場」（1ha）落成式
	7月25日	旧道に「歩行者天国」交通規制実施（以後毎夏）
	11月11日	「碓氷有料バイパス」日本道路公団と建設省によって完成 （13.6km 工事費44億円） ※平成13年11月国道となり、無料開放となる。
1972 昭和47	10月1日	「軽井沢町の自然保護対策要綱」告示
	10月25日	国道18号「軽井沢バイパス」開通
1973 昭和48	8月1日	軽井沢町民憲章制定（町制施行50周年記念）
1974 昭和49	4月29日	ペンション第1号開業
	6月12日	国設軽井沢「野鳥の森」が開園（101.4ha、2.4kmの探鳥路、2棟の観察小屋、食餌植物園2か所あり）
	7月	信濃路自然歩道完成（三笠～峰の茶屋間 10.3km）
1975 昭和50	1月25日 ～29日	第7回「軽井沢氷まつり」、軽井沢駅前とスケートセンターの2ヶ所で開催（14万人参加）
	4月1日	「軽井沢町植物園」開園 ※1万㎡650種（現在約1,600種類）科別に植えつけられ、比較研究に適する。
1976 昭和51	7月20日	「軽井沢町立図書館」開館
1977 昭和52		別荘7,000戸を越す
	7月	サイクリング標識を設置

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1978 昭和53	1月22日 ～24日	第33回国民体育大会冬季大会（やまびこ国体）スケート競技会 軽井沢スケートセンター、星野リンクにて開催
	10月15日 ～19日	第33回国民体育大会秋季大会ライフル射撃大会軽井沢国際射撃場、 軽井沢高校体育館にて開催
1979 昭和54	1月17日	第28回全国高等学校総体スケート大会、軽井沢スケートセンター、 星野リンクにて開催
1980 昭和55	5月31日	旧三笠ホテル、国の重要文化財（洋風木造ホテル建築）として指定
	11月3日	歴史民俗資料館開館
1982 昭和57	7月1日	池袋駅西口に軽井沢コーナー開設
	8月27日	東宮御所より軽井沢町植物園にアサマキスゲ 300 株ご下賜
1983 昭和58	8月1日	町制60周年記念「軽井沢町町勢要覧」60周年記念号発行
1985 昭和60	7月14日	追分宿郷土館開館 しなの追分馬子唄道中開催（毎夏恒例となる）
1986 昭和61	8月10日	保健休養地“軽井沢100”記念式典開催
	10月19日	ショーハウス記念館開館（A.C.ショー師が建築した別荘第1号を 移築再建）
1987 昭和62	1月27日 ～30日	第42回国民体育大会冬季大会開催（信濃路国体）
	4月	東京駅八重洲口において写真パネル展開催
	4月28日	日本ロマンチック街道協会設立（小諸～軽井沢～草津～沼田）
1988 昭和63	11月25日	ドイツロマンチック街道と姉妹街道締結式
1989 昭和64 平成元	1月	第21回「軽井沢氷まつり」、昭和天皇ご病状を憂慮し中止
	7月22日 ～8月26日	神戸～軽井沢間 北陸線經由寝台特急「シャレー軽井沢号」運転
	8月2日	北陸新幹線、高崎～軽井沢間建設工事起工式（軽井沢駅構内）

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1990 平成 2	12月 8 日 ～10日	1989 ワールドカップスピードスケート競技会開催
	12月14日 ～16日	1990 ワールドカップスピードスケート軽井沢大会開催
1991 平成 3	12月19日	多目的屋内運動施設（軽井沢風越公園アリーナ）竣工
	1 月27日 ～30日	第46回国民体育大会冬季大会開催（軽井沢国体）
1992 平成 4	12月 5 日	1992 / 93 スピードスケートワールドカップ軽井沢大会開催
1993 平成 5	3月27日	上信越自動車道 藤岡 I C～碓氷・軽井沢 I C～佐久 I C 開通
	4月 2 日	堀辰雄文学記念館開館
	4月27日	浅間サンライン全線開通〈上田～軽井沢〉
	6月 9 日	皇太子殿下御成婚
	8月 1 日	町制施行70周年、皇太子様の御成婚を記念する町花・町木制定 町花－サクラソウ 町木－コブシ （準町花－アサマキスゲ・ハナヒョウタンボク） （準町木－ヤマボウシ・オオヤマザクラ・カラマツ）
	9月22日	I O C 総会において '98 長野オリンピックカーリング競技会場 に軽井沢風越公園アリーナが決定
	3月19日	オリンピック旗引継ぎ記念式典
1994 平成 6	4月28日	上信越自動車道「碓氷軽井沢」 I C よりアクセス道開通
	6月 6 日	軽井沢警察署庁舎新築移転
	1 月23日	第27回「軽井沢氷まつり」、阪神淡路大震災を考慮し中止
1995 平成 7	3月 8 日 ～12日	日本カーリング選手権大会開催（参加16チーム 100 人）
	5月14日	長野オリンピック 1,000 日前イベント開催（参加 600 人）
	7月18日	軽井沢観光会館改築落成
	11月 7 日	上信越自動車道佐久 I C～小諸 I C 間開通

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1996 平成 8	12月 3 日 ～ 7 日	I O C 長野理事会開催。12月 5 日、W F C 会長 ギンター・フンメルト氏軽井沢町を表敬訪問
	2 月 4 日	長野冬季オリンピック 2 年前・'96 軽井沢カーリングフェステ イバル開催
	2 月 28 日	日本カーリング選手権大会開催（参加16チーム、150 人）
	3 月 17 日	世界ジュニアカーリング選手権大会旗引き継ぎ （カナダ：レッドディア市にて）
	3 月 26 日	第三セクター鉄道会社発起人会（しなの鉄道株）
	4 月 29 日	世界ジュニアカーリング選手権大会旗披露
	4 月 29 日	オリンピック記念世界の樹木植樹祭（風越公園「オリンピックの森」）
	7 月 8 日 ～ 9 日	長野オリンピック、パラリンピックサマーキャンペーン in 軽 井沢開催
	8 月 24 日 ～ 25 日	北信越国体ライフル競技開催
	9 月 29 日	オリンピック 500 日前イベント開催
	11 月 21 日	スカップ軽井沢竣工記念式典
1997 平成 9	2 月 9 日	五大大陸のこどもたちガラ・コンサート開催
	2 月 19 日 ～ 23 日	第14回日本カーリング選手権大会開催
	3 月 22 日 ～ 30 日	'97 軽井沢世界ジュニアカーリング選手権大会開催
	5 月 17 日	北陸新幹線試験電車発進式
	7 月 27 日	長野オリンピック 200 日前記念イベント開催
	8 月 6 日 ～ 7 日	長野オリンピック、パラリンピックサマーキャンペーン in 軽 井沢開催
	9 月 8 日	新幹線特別試乗会
9 月 13 日	小沢征爾 軽井沢ふれあいコンサート開催	

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
1998 平成10	9月26日	さわやかハット外竣工式
	10月1日	『北陸新幹線開業』・JRバス出発式・新幹線「あさま」出発式・しなの鉄道出発式
	10月30日	カーリング会場聖火台燃焼試験及び鍵引き渡し式
	12月3日 ～7日	パシフィックカーリング選手権大会開催
	1月12日	国際ユースキャンプ運営本部開設式
	1月14日	オリンピック村分村運営本部開所式
	1月29日 ～2月1日	長野冬季オリンピック文化・芸術祭参加軽井沢氷彫刻世界大会'98を軽井沢駅前会場において開催
1999 平成11	2月9日 ～15日	第18回長野冬季オリンピック「カーリング競技」を風越公園アリーナにおいて開催
	12月5日 ～1月10日	「軽井沢氷まつり」を「軽井沢ウインターフェスティバル」に名称変更及び期間延長し、クリスマス軽井沢・県カーリング選手権大会・氷彫刻大会と3イベントにより開催（恒例となる）
	1月23日	小沢征爾 軽井沢ふれあいコンサート開催
	1月27日 ～31日	第54回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会開催（軽井沢スケートセンター・風越公園アリーナ）
	2月5日 ～7日	長野オリンピック1周年記念 軽井沢国際カーリング競技大会開催
	3月3日	カナダ国ウィスラー市と姉妹都市提携宣言書に調印
	7月24日	室生犀星記念館 開館 歴史民俗資料館分室市村記念館 開館
2000 平成12	9月15日	小沢征爾 軽井沢ふれあいコンサート開催
	2月4日	軽井沢オリンピック記念館 開館
	2月4日 ～6日	軽井沢ウインターフェスティバルに軽井沢国際カーリング競技大会を加え開催

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
2001 平成13	3月24日	(旧) 軽井沢駅舎記念館 開館
	4月24日	千ヶ滝せせらぎの道 開通
	5月7日 ～12日	ウイスラー市代表団来訪
	7月1日	軽井沢型絵染美術館 開館 (5月26日 小林今日子氏より町に寄贈)
	8月1日	軽井沢ショー祭 2000 開催 (恒例となる)
	8月20日	小沢征爾 軽井沢ふれあいコンサート開催
	8月1日	軽井沢エフエム放送開局式 (軽井沢駅さわやかハット内)
	11月11日	碓氷バイパス、通行無料となる
	12月1日 ～25日	軽井沢ウインターフェスティバル 「ホワイトクリスマス in 軽井沢」開催 (恒例となる)
	12月11日	軽井沢の良質な別荘環境を守るため「マンション軽井沢メソッド宣言」を発表
2002 平成14	12月27日	軽井沢風越公園スケート場竣工記念式典
	1月4日 ～6日	軽井沢ウインターフェスティバル 軽井沢オープンカーリング大会開催 (恒例となる)
2003 平成15	7月1日	湯川ふるさと公園一部供用開始
	1月31日 ～2月2日	軽井沢ウインターフェスティバル 「軽井沢氷彫刻大会」から「軽井沢氷彫刻国際展」へ名称変更し、町民有志による町民団体戦を加え開催
	4月1日	軽井沢観光協会事務局 移転
	5月12日 ～18日	軽井沢国際女子テニス大会開催 (7カ国出場)
	8月1日	町制施行80周年記念事業 ・町鳥-アカハラ 町獣-ニホンリス 制定 ・国道18号バイパス「軽井沢グリーンライン」及び国道18号「もみじ通り」と愛称決定

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
	8月26日 ～31日	天皇・皇后両陛下下行幸啓
2004 平成16	12月20日	上信越自動車道 碓氷・軽井沢 I C～佐久 I C 間 4 車線開通
	8月26日	軽井沢ナンバー導入促進期成同盟設立
	9月1日	浅間山 小・中規模噴火
	12月5日	軽井沢大賀ホール竣工引渡式
2005 平成17	1月29日 ～30日	軽井沢ウインターフェスティバルに「軽井沢スイーツコンテスト」を加え開催
	4月29日	軽井沢大賀ホールグランドオープン
	4月30日 ～5月8日	軽井沢大賀ホールオープニングコンサート
	7月2日 ～3日	カナダ国ウィスラー市において、姉妹都市提携5周年記念観光パネル展を開催
	9月30日	国民宿舎「軽井沢高原荘」閉鎖
	12月22日	軽井沢まちなみメソッド宣言発表
2006 平成18	2月8日	旧碓氷峠遊覧歩道の吊り橋架け替え
	3月16日	追分宿本陣門を堀辰雄記念館へ移転・復元
2007 平成19	4月	保健福祉複合施設「木もれ陽の里」オープン
2008 平成20	1月26日 ～27日	氷彫刻国際展の開催見合わせ
	1月28日 ～2月1日	第63回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会開催 (風越公園アリーナ・軽井沢スケートセンター)
	8月9日	町制施行85周年記念式典
	8月24日 ～28日	天皇皇后両陛下下行幸啓

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
2009 平成21	12月26日 ～1月12日	ニューイヤー in 軽井沢開催
	1月31日 ～2月14日	「バレンタイン in 軽井沢」開催（恒例となる）
	2月2日	浅間山小規模噴火（平成16年中規模噴火以来）
	4月10日	天皇皇后両陛下ご成婚50周年ユウスケ配布
	8月8日	ウイスラー・軽井沢姉妹都市提携10周年記念軽井沢国際親善交換会
	8月24日 ～27日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	12月23日	「風越公園アリーナ」が「風越公園アイスアリーナ」と名称変更しリニューアルオープン
2010 平成22	4月1日	浅間ふれあい公園供用開始
	5月23日	軽井沢ハーフマラソン開催
	6月1日	「恋人の聖地」に選定される（県内8番目）
	7月1日	「こうほうかるいざわ」・「さる情報」・「くま情報」メール配信サービス開始
	8月24日 ～27日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	10月1日 ～12月31日	信州デスティネーションキャンペーン開催
	10月24日	第1回「軽井沢リゾートマラソン」開催（恒例となる）
	12月11日	軽井沢風越公園スケート場オープン、国際規格（Cタイプ）
2011 平成23	1月1日	新軽井沢駐車場供用開始（普通車226台／大型車12台）
	3月11日	東日本大震災発生
	3月12日	長野県北部地震発生

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
2012 平成24	4月15日	軽井沢町が自然環境功労者環境大臣賞を受賞
	4月23日	軽井沢名誉町民 大賀典雄氏逝去
	8月23日 ～27日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	10月24日	軽井沢風越公園スケート場記録室棟竣工
	8月11日	さわやか軽井沢交流会開催
2013 平成25	8月23日 ～27日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	11月13日	六本辻ラウンドアバウト運用開始
	4月1日	軽井沢町地域交流施設「くつかけテラス」併用開始 中軽井沢図書館（くつかけテラス内）開館 軽井沢アイスパーク（風越公園カーリングホール）オープン
	8月1日	町制施行 90 周年記念事業 ・シンボルマーク制定
	8月10日	さわやか軽井沢交流会開催
2014 平成26	8月24日 ～29日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	2月7日	2016年の主要国首脳会議（サミット）誘致を表明
	2月15日	月最深積雪 99cm を記録 ※ 1925年の観測開始以来過去最高
	3月8日	中軽井沢図書館来館者 20 万人を達成
	4月1日	富岡市・安中市・軽井沢町観光連携協議会発足
	4月1日	スカップ軽井沢リニューアルオープン
	6月30日	軽井沢町社会体育館閉館
	7月1日	風越公園総合体育館オープン
7月22日	農産物直売所の愛称「軽井沢 ^{ほっちいちば} 発地市庭」に決定	

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
2015 平成27	12月25日	サミット誘致推進シンポジウム開催
	1月27日	旧スイス公使館（深山荘）を町指定文化財として指定
	3月14日	北陸新幹線金沢延伸
	4月1日	風越公園グラウンドリニューアルオープン
	4月1日	軽井沢町観光振興センターオープン
	7月3日	交通大臣会合開催決定
	7月19日	閣僚会合推進係設置
	8月22日 ～26日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	10月23日	中軽井沢図書館来館者 50 万人を達成
2016 平成28	4月26日	農産物等直売施設「軽井沢発地市庭」プレオープン
	5月24日	旧近衛文麿別荘（市村記念館）を町指定文化財として指定
	6月25日	農産物等直売施設「軽井沢発地市庭」グランドオープン
	8月20日 ～29日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	9月23日 ～25日	G7 長野県・軽井沢交通大臣会合開催
	11月3日 ～6日	軽井沢発地市庭 秋の大収穫祭開催期間中に 来場者 20 万人を達成
	12月14日 ～18日	ワールドカーリングツアー日本大会 軽井沢国際カーリング選 手権大会 2016 開催
2017 平成29	1月27日 ～31日	ながの銀嶺国体アイスホッケー競技開催
	3月24日	中学校新グラウンド完成
	3月31日	（旧）軽井沢駅舎記念館閉館
	〃	木もれ陽の里 健康増進部門 来館者 30 万人を達成

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
2018 平成30	4月25日	八田別荘を町指定文化財として指定
	6月16日 ～平成30年4月25日	雲場池整備工事
	8月22日 ～29日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	10月27日	しなの鉄道軽井沢駅旧駅舎口開業
	1月29日	第1回軽井沢町エコツーリズム推進協議会開催
	2月1日 ～3月31日	インバウンド向け2日間フリーパス 「SHINANO RAILWAY BANZAI 2-DAY PASS」発売
	3月28日	植物園（風越鷲穴半自然草原）を町指定文化財として指定
	4月2日	G20 関係閣僚会合開催決定
	4月7日	軽井沢発地市庭 来場者 50 万人を達成
	4月26日	雲場池竣工式
	4月28日	第50回「若葉まつり」開催
	5月1日	観光経済課に G20 関係閣僚会合担当職員を配置
	5月22日	G20 関係閣僚会合開催日 2019年6月15日、16日に決定
	8月16日	中軽井沢図書館来館者 100 万人を達成
	8月22日 ～29日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	9月22日	第50回「紅葉まつり」開催
	2019 平成31 令和元	12月19日
12月25日		町道借宿バイパス線開通
6月15日 ～16日		G20 関係閣僚会合開催

西暦年号	月 日	観 光 の あ ゆ み
	8月3日	ウイスラー市との姉妹都市提携20周年記念式典開催
	8月7日	浅間山小規模噴火 噴火警戒レベルを1から3に引き上げ
	8月22日 ～27日	上皇上皇后両陛下下行幸啓
	10月12日	台風第19号伊豆半島上陸に伴い、日降水量314.5mmを記録 ※1925年の観測開始以来過去2番目の多さ（10月としては過去最高）
2020 令和2	4月7日	2019年末より世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響により軽井沢若葉まつりが中止
	10月23日	黄壁布屋、鳶屋、塩沢の郷倉、長倉神社本殿、茂沢薬師堂、杉瓜観音堂を町指定文化財として指定
2021 令和3	12月17日	2023年のG7関係閣僚会合誘致を表明
2022 令和4	3月17日	福井県と軽井沢町との相互発展に向けた連携に関する協定締結
	5月26日	軽井沢エコツーリズム推進全体構想認定
	8月30日	G7長野県軽井沢外務大臣会合開催が決定
2023 令和5	4月16日 ～18日	G7長野県軽井沢外務大臣会合開催
	5月16日	正宗白鳥文学碑の移設に係るオープニングセレモニー及び除幕式
	6月27日	追分節・熊野皇大神社太々神楽を町無形民俗文化財に指定
	8月1日	町制施行100周年
	8月22日 ～29日	上皇上皇后両陛下下行幸啓
	9月25日	軽井沢夏の家(旧アントニン・レーモンド軽井沢別邸)が国の重要文化財に指定
2024 令和6	3月16日	北陸新幹線敦賀延伸

(参考) ○軽井沢町誌(歴史編) ○軽井沢百年の歩み